

平成 26 年 5 月 29 日

平成 25 年度学校関係者評価委員会報告

学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校
自己評価委員会・学校関係者評価委員会

学校法人平成医療学園 平成医療学園専門学校 自己評価委員会 学校関係者評価委員会は、平成 25 年度自己評価報告書に基づき、学校関係者評価を実施し、以下の通り報告いたします。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 勝浦 政夫 (大阪鍼灸マッサージ協同組合 理事長、全国柔整鍼灸協同組合 保険局局長)
- ② 松本 尚純 (貞友会[同窓会] 副会長)
(事務局)
 - 石田 武 (平成医療学園専門学校 校長)
 - 中谷 裕之 (平成医療学園専門学校 統括長、全国柔整鍼灸協同組合 法制局長)
 - 北野 吉廣 (平成医療学園専門学校 教務部長、全国柔整鍼灸協同組合 学術局長)
 - 高木 保子 (平成医療学園専門学校 教務部長補佐)
 - 竹本 晋史 (平成医療学園専門学校 柔道整復師科学科長、全国柔整鍼灸協同組合 局長)
 - 内野 容子 (平成医療学園専門学校 鍼灸師科・東洋療法教員養成学科学科長)
 - 増田 順一 (平成医療学園専門学校 事務長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

開催日：平成 26 年 5 月 29 日 (木)

開催場所：平成医療学園専門学校 4 F 役員室

3 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

別紙

I 重点目標について

業界のスポーツ分野や介護・福祉分野への業圏の拡大により、業界が求める人材像が変化していることに対応できる人材の育成を重点目標として掲げ、様々な取組みを行っている様子は、関係者から耳にした入り、自己評価報告から伺えます。

時代や社会のニーズに適応できなければ、いずれは衰退することになりますので、社会の変化に対応すべく、今後も様々な取組みにチャレンジしていただきたいと思います。

反面、最近注目されている「患者との対話に基づいた医療」(Narrative-based Medicine) は、我々業界で先輩から後輩へと長年受け継がれてきた医療人としての姿勢であり、最も大切にしているところでもあります。この部分についてはしっかりと継承し、社会にアピールしていかなければならないと考えます。

時代や社会の変化に対応してだけでなく、我々の業界は、伝統医療・東洋医療という古き良きものをしっかりと後世に伝えるという役目も担っていることも忘れないでほしい。

平成医療学園専門学校は、そのような、「新」「古」のバランスが取れた人材を育成する教育機関であってほしいと思います。

II 各評価項目について

項目	評価
基準1 教育理念・目的 ・育成人間像	柔道整復、はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧の施術を行っている臨床家たちが、自らの後継者を自らの手で育てようという理念は素晴らしく共感できる。 時代や社会のニーズの変化に対応できるようなカイゼンを期待している。
基準2 学校運営	統括長を配置し意思決定ならびに上下の情報伝達を迅速に行っていることは評価できる。今後、IT技術等の活用により一層の迅速化を期待する。
基準3 教育活動	業界における変化に対応しようと、様々な工夫や新しい試みを教育編成や教育内容に組み入れていることは評価できる。教育活動については各学科別に自己点検・評価を行う方が望ましいのではないかと。

項 目	評 価
基準4 学修成果	国家資格取得については多くの受験者を輩出しているにも関わらず、開校以来、高い合格率を安定的にキープしているのは素晴らしい。今後も業界団体と連携しながら業界の新しい業圏に対応できる教育を充実させて就職選択肢の拡大に努めてほしい。
基準5 学生支援	<p>担任制の導入による教育支援体制、独自奨学金の給付による経済支援などは評価できる。近年、高校新卒生の入学者が増加していることに対する学生支援の在り方（保護者対応等）について目を向ける必要があるだろう。</p> <p>※資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 担任制を導入しており、長期欠席者の対応、勉強方法のアドバイス、学生生活相談などの教育支援体制を構築している。 ● 本校独自の学費支援奨学金として、夜間部特別奨学金制度（3年間で84万円給付）、A0入試奨学金制度（早期A0入試25万円給付、後期A0入試12万円給付）、医療系国家資格者支援制度（25万円給付）、平成特別推薦支援制度（25万円給付）、後継者育成支援制度（12万円給付）を運用した。
基準6 教育環境	<p>施設・設備・備品の老朽化が目立ってきているので、学生の安全確保ならびに教育活動に直接関連の深いものより、優先的に更新していただきたい。</p> <p>I T機器を活用した教育環境の整備を検討すればどうか。</p>
基準7 学生の募集 と受入れ	学校説明会への在校生協力要請や、授業見学の受け入れ、個別相談会の充実など、入学前の説明も誠実に対応されており、ミスマッチによる退学を未然に防ごうという姿勢が伺えます。
基準8 財 務	大学のWebの情報公開ページでも学園全体の財務状況が公開されているが、特に問題なく、財務状況は健全であると思われます。
基準9 法令等の遵守	<p>教育機関として、法令遵守は当然のことであると考えます。</p> <p>学校は公的要素の強い機関であるので、様々な法令等についての情報は常に収集し理解した上で健全な学校運営を行ってください。</p>
基準10 社会貢献 ・地域貢献	<p>活動内容が形式的ではなく、人と人がつながる社会貢献・地域貢献の様子が伺え素晴らしい。医療人の素養として根本的な部分であると思うので、今後も積極的に活動してほしい。</p> <p>※資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ● これまで学内で開催していた学園祭を、地域の公園で実施し、近隣住民が参加できるイベント、公開講座（運動指導、アロマセラピー体験）、模擬店などを催した。

項目	評価
その他 国際交流	<p>教員の資質向上にも役立ち、絶好の学術研鑽の機会と考えられます。また、海外の医療や文化・風習に触れることで、治療家としての自覚と見識を深め、自己形成の礎となることも期待しています。</p> <p>※資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 将来の柔道整復師、鍼灸師を志すにあたり、これまで以上に治療家としての資質が問われる中、解剖学に関する幅広い知識の修得を目的として、海外解剖学研修を実施している。海外の医科大学で活躍される先生方から、解剖学の講義や演習の指導を受け、国内ではできない貴重な体験をすることができる。

III 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果は、外部から見る本校の客観的な状況として捉え、今後の学校運営を考える大切な情報であると認識している。よって学校関係者評価結果は、それらの内容に応じた部門で共有され、各部門会議（運営者会議、教務会、教職員会議、事務会議等）により、今後の課題の抽出や対応策の検討に役立てられている。

項目	評価
基準3 教育活動	教育活動の自己点検・評価を、各学科別に行う必要性を指摘され平成26年度の自己評価については各学科別行うこととした。
基準4 学修成果	平成26年度より、卒業後の就職選択の充実・拡大を目的として、キャリアサポート委員会を設置した。
基準5 学生支援	高校新卒生の入学生が増加していることに対応して、平成27年度の広報媒体として保護者用の媒体資料を制作し配布している。
基準6 教育環境	教育環境の改善のために、平成25年度に学生用椅子120脚を購入し、平成26年度中に120脚を入替る予定。 また、教室で使用する授業用プロジェクター6台を天井つりさげ型のものに更新した。
基準7 学生の募集 と受入れ	入学後のミスマッチによる退学を未然に防ぐため、平成26年後期より入学前教育として、スポーツトレーナーセミナーを定期的実施することとした。
基準10 社会貢献 ・地域貢献	平成26年6月10日付で、大阪市北区の津波災害等の避難施設として指定を受けた。

以上